

京都府田辺町

# 飯岡遺跡第5次発掘調査概報

—無線基地局建設地の調査—



1994

田辺町教育委員会

## 序

田辺町のほぼ中央部に木津川に接して存在する飯岡丘陵は、古くから古墳の山として知られています。

近年では、弥生時代の集落の様子もわずかずつではありますが、わかってきています。

今回の報告は、この丘陵の最高所にある薬師山古墳のすぐ北側で行った調査のものです。

調査にあたりましては、株式会社ツアーホン関西、関係機関をはじめ多くの方々のご協力・ご指導をいただきましたことをお礼申しあげるとともに、今後とも埋蔵文化財に対しご理解たまわりますようお願い申し上げます。

平成6年3月

田辺町教育委員会

教育長 吉 山 勝 平

## 例 言

- 1 本書は、田辺町教育委員会が行った京都府綴喜郡田辺町大字飯岡小学中峯25番地の1ほかに所在する飯岡遺跡の第5次発掘調査の概要報告である。
- 2 調査は株式会社ツーカーホン関西（代表取締役 滝谷裕弘）の依頼を受け、平成5年度事業として実施した。
- 3 現地調査は平成5年4月12日に開始し6月16日に終了した。
- 4 調査の組織は次のとおりである。  
調査主体・・・田辺町教育委員会  
調査責任者・・・田辺町教育委員会 教育長 吉山勝平  
調査指導・・・京都府教育委員会・京都府立山城郷土資料館・田辺町文化財保護委員会  
調査担当者・・・田辺町教育委員会 社会教育課 鷹野一郎  
同 上 中井 英策  
調査事務局・・・田辺町教育委員会 教育次長 中川 勝之  
同 社会教育課 課長 奥西 安己  
同 課長補佐 木下 敏巳  
同 社会教育係長 小西ケイ子  
調査参加者・・・岩本 貴・辻谷真夕・植西美津子・原クニ江
- 5 調査を実施するについて、株式会社ツーカーホン関西をはじめ株式会社野原工務店、有限会社辻元組、京都パトロール警備保障株式会社には多大のご協力を賜った。記して感謝します。
- 6 調査期間中及び本書を作成するにあたり、次の方々よりご教示を得た。記して感謝の意とします。  
〔順不同・敬称略〕  
杉原和雄・久保哲正・森下衛・肥後弘幸（京都府教育委員会）、高橋美久二（京都府立山城郷土資料館）、安藤信策・辻本和美（財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）、山田邦和（京都文化博物館）、鈴木重治・辰巳和弘（同志社大学）、吉村正親（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）、村川俊明（精華町教育委員会）、杉本宏・荒川史（宇治市教育委員会）、中島正（山城町教育委員会）、西方寺（住職 北村有信）
- 7 本書の執筆・編集は鷹野が行った。

## 目 次

1 はじめに	1
2 位置と過去の調査	2
3 調査経過	6
4 調査概要	7
5 まとめ	11

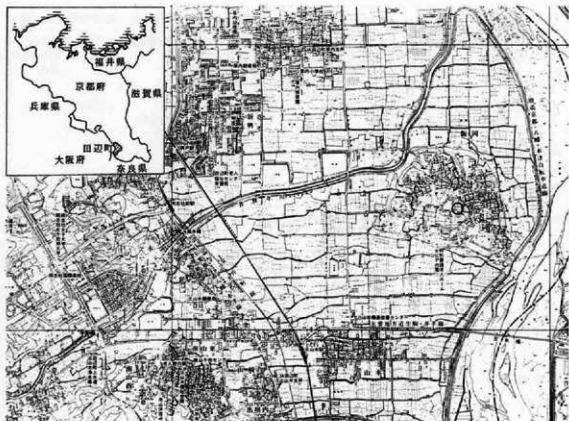
## 1 はじめに

いのなか  
飯岡遺跡は、京都府綴喜郡田辺町大字飯岡に位置する、弥生時代後期の高地性集落として知られ、これまでに竪穴住居跡や方形周溝墓がみつまっている。

株式会社ツーカーホン関西では、田辺町大字飯岡小字中峯25番地の1に無線基地局の建設を計画された。計画地は、飯岡遺跡に含まれ、薬師山古墳の北接地でもあったため、文化財保護法に基づく届出と事前の発掘調査が必要な旨伝えた。

その後、平成5年1月7日に当委員会に対し、発掘調査の依頼があったが、平成4年度内の調査は日程的にも困難な状況であったため、現地調査は年度が変わった平成5年4月12日から開始し、薬師山古墳の地形測量も含め6月16日に終了した。

なお、株式会社ツーカーホン関西をはじめ、株式会社野原工務店、有限会社辻元組の関係者の方々、ご指導・ご協力くださった皆さま、調査に従事された諸氏、その他多くの方々の協力によって今回の調査が行われたことをここに記して感謝の気持ちとしたい。



調査地位位置図 (S = 1/20,000)

## 2 位置と過去の調査

田辺町は、京都府南部に広がる南山城平野のほぼ中央、平野中央を北流する木津川の左岸に位置する。町の西部は生駒山系に連なる京阪奈良地帯を界して大阪府・奈良県と接し、東部は木津川によって形成された沖積平野が広がる南北に長い町である。

飯岡遺跡は、田辺町東部の木津川に接して存在する周囲2kmあまりの独立丘陵のほぼ全域にわたる遺跡である。丘陵の最高所は標高67.6mで、南側の水田との比高は約40mを測る。南山城平野の中央に位置しているため、頂部からの眺望は絶景である。

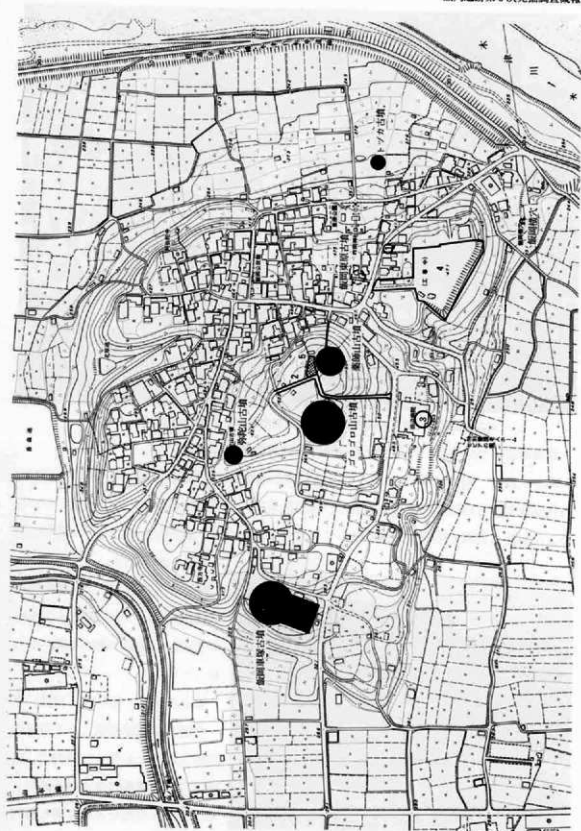
古くから古墳の山として知られ、古墳時代前期の前方後円墳飯岡車塚古墳をはじめ、中期のゴロゴロ山古墳・薬師山古墳・弥陀山古墳・トツカ古墳などの円墳、後期の主体部がみつかった飯岡東原古墳や飯岡横穴が存在するが、これら以外にも多くの古墳があったことが知られている。

これらの古墳は、木津川の水運と深いかわりのあった一族の墓とみられる。

古墳については、表にしてまとめておく。

名称	墳形	規模	主体部	副葬品	外部施設	築造時期	備考
飯岡車塚古墳	前方後円	全長9.0m 後円径6.0m	竪穴式石室 長2.4m 幅1.2m 高1.2m	勾玉4・管玉26・小玉多数、石鏃24・車輪石4・鍔形石1、脚付小形埴1、刀剣破片	楕円筒埴輪 葺石	4世紀末	明治35・昭和51年調査
ゴロゴロ山古墳	円 <sup>1)</sup>	径6.0m 高9m	不明	不明	葺石 一部に堀	5世紀	
薬師山古墳	円	径3.8m 高6m	不明	不明	葺石?	5世紀	
弥陀山古墳	円	径2.5m 高4m	不明	不明	不明	5世紀か	
飯岡東原古墳	不明	不明	木棺直葬 棺長1.95m	須恵器・土師器、鉄製刀子	不明	6世紀前半	昭和53年調査
トツカ古墳	円 <sup>1)</sup>	径2.0m 高3.5m	竪穴式石室 長3m 幅0.7m 高0.9m	銅鏡3面、勾玉2・管玉多数・小玉多数、鹿角製装具付刀剣、鉄地金銅装の馬具(鏡板・杏葉・鞍金具など)	埴輪・葺石	5世紀後半	明治7年調査
飯岡横穴	羽子板形	玄室 長4.1m 幅1.72m ～ 2.32m 高1.5m		須恵器		6世紀後半～末	昭和53年調査

飯岡古墳群一覧表



飯岡丘陵地形図 (S = 1/5,000、左が北)

数字は調査次数



ゴゴロ山古墳(左)・薬師山古墳(右)空中写真(上が北・1982年12月撮影)

飯岡遺跡については、今回を含め5回の発掘調査が行われている。

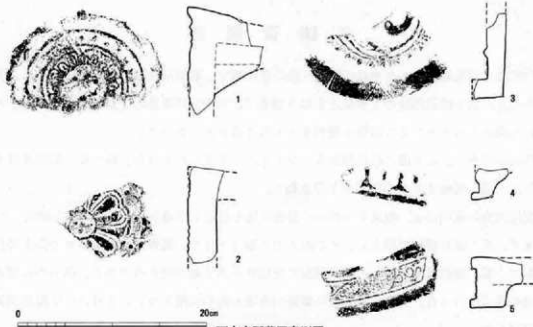
第1次調査 昭和34(1959)年 丘陵南東部の道路崖面に住居跡の断面が露呈しており、古代学研究会と田辺郷土史会が共催し、同志社大学の学生諸氏が参加して行ったものである。住居跡は周溝と床面の一部が残っていただけだったが、直径約8mの円形の堅穴住居と考えられている。



飯岡遺跡第2次調査

昭和53(1978)年の飯岡東原古墳調査時には、木棺直葬の主体部の下層から後期の溝状遺構がみつかっている。

第2次調査 昭和57(1982)年 今回の調査地西側にある農道の建設工事にともなった調査で、後期の方形周溝墓とみられる溝が2本とそれらを囲むような溝と柵列がみつかった。



西方寺所蔵瓦実測図

第3次調査 昭和60(1985)年 田辺病院の増築にともなう調査で、後期の方形竅穴住居跡(4.5×4.8m)がみつかった。

第4次調査 平成4(1992)年 天理教の神殿建築にともなう調査で、古い順から後期の多角形(?)住居跡、円形竅穴住居跡(直径約6.5m)、方形周溝墓(一辺約12m)が重なった状態でみつかった。

以上のような発掘調査の成果により、飯岡遺跡は丘陵の南傾斜部分を中心に住居が広がり、丘陵頂部や古い住居の跡には方形周溝墓が作られた弥生時代後期の高地性集落であることが判明してきた。

上の図は現在飯岡の西方寺(住職北村有信)に所蔵されている瓦類である。

1は複弁八葉蓮華文を内区とし、外縁は線鋸歯文で飾る、平城宮式6282Bbである。淡灰褐色を呈し軟質のもの。同型式のものが山城町の高麗寺跡、松尾廃寺などにみられる。2は複弁五葉蓮華文を内区とし大きな間弁をもつ。外区は珠文が巡り、素縁である。瓦当裏面にも布目があり、平安時代中期のものである。淡灰色のやや硬質。3は左回りの三巴文をもつ大ぶりの鎌倉時代前期のもの。4は3と組み合う時期の剣頭文軒平瓦。灰色の軟質。5は鎌倉時代後期の唐草文軒平瓦。瓦当面にハナレ砂がみられる。淡灰色を呈し軟質。

これらの瓦類は、飯岡車塚古墳の東側に広がる平坦地にあったとされる蓮華寺跡からみつかったものという。蓮華寺については、明治初年に廃寺になったという記録が残っているが、その創建時期については明らかでなく、注目される瓦類である。



### 3 調査経過

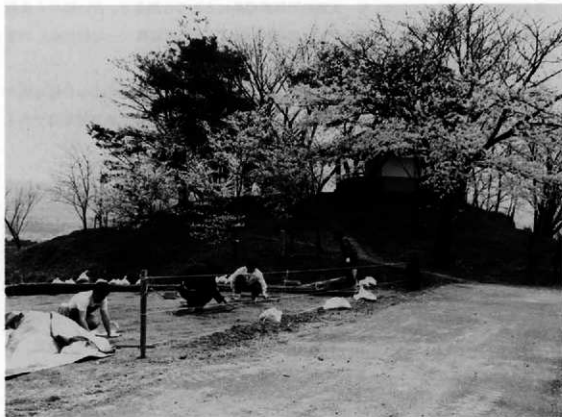
今回調査対象地となったのは、飯岡丘陵の頂上部で、薬師山古墳のすぐ北側である。西側を南北に通る農道建設の工事にともなう調査で、弥生時代後期の2基の方形周溝墓とみられる溝の一部とそれらの南側に櫛列をともなう溝が見つかった。

今回の調査で、この溝の延長部が見つかるものと考えられたほか、新たな方形周溝墓や薬師山古墳に関係するものなどが予想された。

現地調査は東西12m、南北7～10mの調査区域を設定し平成5年4月12日から開始した。

まず、表土層を機械で除去し、その後人力で掘り下げた。調査区中央東寄りで弥生時代後期の土壌、南西部で薬師山古墳の掘削の可能性がある傾斜面が見つかり、部分的に調査区域の拡張を行った。また、期間中に薬師山古墳の地形測量を行い、6月16日に現地調査を完了した。

なお、弥生時代の土壌および古墳の掘削の可能性がある傾斜面については、無線基地局の設計変更により保存することができた。



作業風景（北西から）

## 4 調査概要

調査地は東に向けてゆるやかに傾斜が下がる地形であり、かつては茶畑として利用されていたが、現状では荒地地となっていた。

層位は、表土の下にうすく黄褐色系の粘質土があり、その下は赤褐色ないし明黄褐色の粘質土の地山となるが、東寄りの部分では礫を含むようになる。

遺構は、地山面で見つかっており、その面の標高は西部で64.50m、東部で64.00mを測る。

### (1) 遺構

今回みつかった遺構には、弥生時代の土壇・薬師山古墳にともなう掘割の可能性のある傾斜面、時期不明のピット、地境溝、耕作にともなう溝などがある。

**SK06** 平面形が不整形のすりばち状の土壇。直径1.2~1.4m、深さ0.6mを測る。底面には、柱穴状のピットが2ヶ所ある。埋土より弥生時代後期の土器がみつかった。

**SK07** 調査区北端でみつかった土壇状のもので、調査区外まで続く。上面は削平を受けており、深さは0.2mを測るが、さらに深かったものとみられる。埋土より弥生時代後期の土器がみついている。

**SX08** 調査区南西部でみつかった地山の傾斜面。段差約1mを測る。上面は直線的で



調査地全景（北西から・右上が薬師山古墳）



SK08 (南東から)

あるが、底面のラインは弧状になり、薬師山古墳を囲むようにもみえる。斜面には、地山面から掘られた多くのピットがみられるが、何の穴かはよくわからない。埋土は4層に分かれ、下2層は弥生時代後期の土器のみを含む。このため古い時期の段差であることがわかり、薬師山古墳の掘削の可能性



SX08 (西から)

がある。

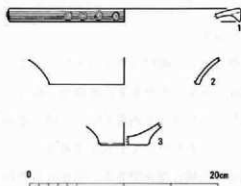
SX05 調査区東端でみつかった深さ1.5mを測るもの。南北7m、東西2m以上を測り、底は2段になる。

## (2) 遺物

今回の調査では、弥生時代の土壌やSX08下層から弥生時代後期の土器がみつかったほか、SX08の上層や地境溝から近世後半の陶磁器や瓦がみつまっている。量的には、整理箱に1箱もみたくない。

図示したものはいずれも弥生土器である。

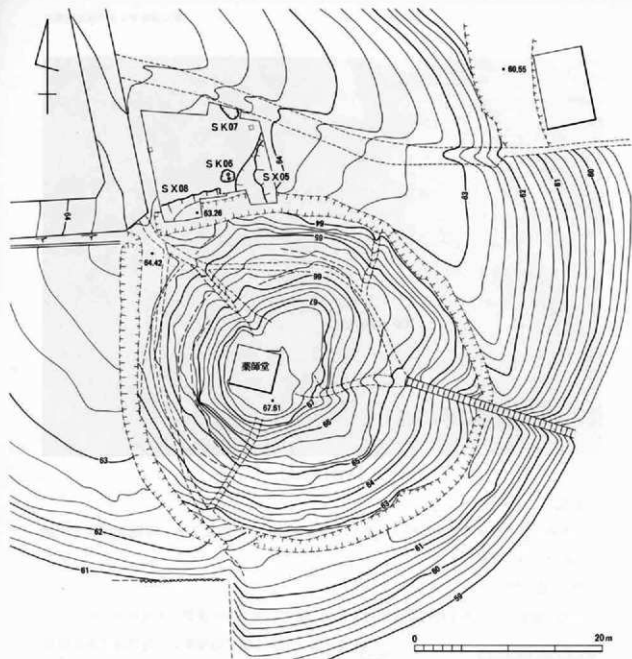
1は器台の口縁部とみられ、下方に拡張させた口縁端部には4条の凹線と竹管紋を施した円形浮紋が巡る。淡褐色を呈する。SX08出土。2は高杯の口縁部とみられる。淡赤褐色を呈する。SX08出土。3は底部でSK06出土。



弥生土器実測図

SX08: 1, 2 器台(1)、高杯(2)

SK06: 3 底部(3)



薬師山古墳地形図 (S = 1/400)

**薬師山古墳** 今回、調査にあわせ古墳の地形図を作成した。縮尺は百分の1で25cmごとの等高線を求めた。古墳は、丘陵頂部の隅部に、墳丘すそからそのまま丘陵斜面に続くように築かれており、実際よりも大きくみえるようになっている。北西部を除き古墳の周囲はすべてガケ状になっており、明確な墳丘の裾はいっそうわかりにくい状況である。

北西部の墳丘裾が認められる部分から、直径約38mの円墳に復元できる。高さは北西側で約3.2m<sup>3)</sup>、東側で6mを測る。外表施設としての葺石・埴輪については不明であり、存在しなかった可能性もある。

## 5 ま と め

今回の調査は、飯岡丘陵の頂部、薬師山古墳に北接する地点での小規模な調査であったが、弥生時代後期の土壌、薬師山古墳にともなう掘削の可能性がある傾斜面（段差）がみつかった。

弥生時代については、これまでに丘陵頂部で方形周溝墓がみつかっており、周辺になお多くの遺構が存在するものとみられる。

傾斜面（段差）については、調査区の西側部分で延長約6.5m分を確認できたものであり、東側部分はSX05等により攪乱されているため明らかでないが、続いてはなかったものと考えられる。下層には弥生土器のみを含む層があり、古い時期のものともみられ、薬師山古墳に接することから掘削の可能性も高いが、古墳側を調査していないため断定はできない。掘削であるとする、周辺の地形ともあわせ、薬師山古墳は円墳であることが一層確実となり、古墳の範囲がきわめてわずかではあるが確認できたことになる。

### 注

- 1) 小野忠憲氏は北東部に前方部をもつ100m級の前方後円墳と考えている。
- 2) 吉村正親氏は北向きの方後円墳と考えている。
- 3) SX08が掘削とすると、底から墳頂部までは約4.3mを測り、直径も40mあまりとなる。

### <参考文献>

梅原末治「山城飯岡トツカ古墳」「山城飯岡車塚古墳」(『日本古文化研究所報告』9 日本古文化研究所 昭和13年 1938)

平良泰久・下村晴文編『南山城の前方後円墳』龍谷大学文学部考古資料室 昭和47年 1972

森浩一編『田辺天神山弥生遺跡』(『同志社大学文学部考古学調査記録』第5号同志社大学文学部考古学研究室 昭和51年 1976)

同志社大学校地学術調査委員会編「飯岡横穴発掘調査報告」「付載 飯岡東原古墳の発掘調査」(『田辺町埋蔵文化財調査報告書』第1集 昭和55年 1980)

ほか『田辺町埋蔵文化財調査報告書』



平成6年3月30日 印刷

平成6年3月31日 発行

## 飯岡遺跡第5次発掘調査概報

— 無線基地局建設地の調査 —

（田辺町埋蔵文化財調査報告書第17集）

編集・発行 田辺町教育委員会  
〒610-03 京都府綴喜郡田辺町  
大字田辺小字田辺80番地  
電話 07746-2-9550

印刷 明新印刷株式会社  
〒630 奈良市南京終町3丁目464番地  
電話 0742-63-0661

（表紙） 飯岡町の東部山古墳  
（裏表紙） 井手町万灯呂山から見た飯岡丘陵